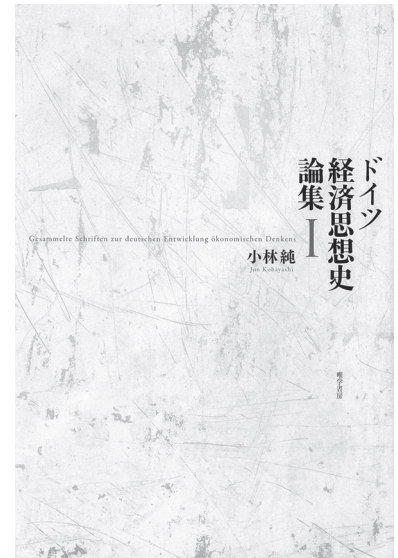


ドイツ経済思想史論集 I

小林 純 著

四六判 上製 288 ページ 定価：本体 2,600 円 + 税 ISBN978-4-902225-73-0 C3033

クニース、シュモラー、メンガー、
ナウマン、レーデラー、ノイラート……
一九世紀中葉からヴァイマル期までの
ドイツ語圏における経済思想史の展開を追う



【目次】

- I カール・G・A・クニース——ドイツ歴史学派の倫理的経済思想
一 生涯と著作／二 政治経済学／三 ドイツの歴史的立場／四 ロッシャーとシュモラーの影に
- II 一九世紀ドイツの経済学観——シェーンベルク版ハンドブックをめぐって
一 はじめに／二 前史——ポリティカル・エコノミーという語／三 シュモラーの書評／四 メンガーの書評／五 社会経済学要綱 (GdS)——資本主義論へ
- III ワルター・ロツツの経済政策観
一 はじめに／二 「ドイツ通商政策の将来」／三 「学問と特殊利害」／四 自由貿易派の展望について
- IV 経済統合の系譜——ナウマン「中欧」論によせて
一 はじめに／二 ナウマンの「中欧」論／三 社会政策学会と政府の中欧論／四 マルシャルの経済統合論
- V エミール・レーデラーの位置をめぐって
一 はじめに——社会政策の限界／二 経済的危機の認識／三 レーデラーの位置／四 アウタルキー批判／五 おわりに
- VI ヴィーンのオットー・ノイラート——一九二〇年代の実践活動
一 はじめに／二 その生涯／三 ギルド運動／四 博物館と図像教育／五 おわりに
- VII 研究動向
一 エミール・レーデラーのこと／二 不確実性、秩序、倫理——最近のドイツ経済学史の研究から

【著者紹介】

小林 純 (こばやし・じゅん)

1950年生まれ、立教大学経済学部教授。著書に、『マックス・ヴェーバーの政治と経済』（白桃書房、1990年）、『ヴェーバー経済社会学への接近』（日本経済評論社、2010年）、『研究室のたばこ——経済思想史の周辺で』（唯学書房、2011年）。訳書に、ビーサム『マックス・ヴェーバーと近代政治理論』〔共訳〕（未来社、1988年）、テンブルック『マックス・ヴェーバーの業績』〔共訳〕（未来社、1997年）、トライブ『経済秩序のストラテジー』〔共訳〕（ミネルヴァ書房、1998年）がある。

◆ご注文書

FAX 03-5215-1953

電話 03-3237-7073

書店印	新刊委託	ドイツ経済思想史論集 I	冊数
		ISBN 978-4-902225-73-0 C3033 定価：2,600 円 + 税 著者：小林 純 発行：唯学書房 発売：アジュール・プロダクション URL：http://business2.plala.or.jp/asyl/yuigaku/	

書店様へ 取次会社は、トーハン、日販、大阪屋、栗田、太洋社、明文図書、大学図書、JRC、新日本図書です。